

第 100 回全国算数・数学教育研究（東京）大会 報告

公益社団法人日本数学教育学会 創立百周年記念大会 報告

第 100 回全国算数・数学教育（東京）大会が、東京理科大学神楽坂キャンパス等の会場にて、平成 30 年 7 月 31 日（火）から 8 月 5 日（日）の日程で開催された。

研究主題は「100 年の伝統を踏まえた未来の算数・数学教育の展望」であり、今後の日本の算数・数学教育の新しい指針を提案し、社会の発展に寄与する算数・数学教育の実現が目指されている。

7 月 31 日（火）～8 月 1 日（水）

1. 講習会

東京理科大学 神楽坂キャンパス 2 号館
高等学校部会の講習内容

(1) アクティブな思考を生む新しい教材～筑波大学附属駒場中・高等学校の授業から～

鈴木清夫（筑波大学附属駒場中・高等学校）

(2) 「探究活動」を取り入れた高等学校数学科の学習指導

熊倉啓之（静岡大学）

(3) 数学オリンピックの実際的な様子について

～一卒業生の視点から～

尾高悠志（京都大学大学院）

(4) 高等学校数学科の教育課程

長尾篤志（文部科学省初等中等教育局）

(5) 高等学校における数学的活動について

濱中裕明（兵庫教育大学大学院）

(6) コンピューターで解ける数学の問題と解けない問題

佐藤洋祐（東京理科大学）

8 月 2 日（木）

2. 創立百周年記念式典・表彰状授与式

10:00～16:00 TFT ホール(東京お台場)

東京大会とは別に、日本数学教育学会創立百周年記念大会が、東京お台場 TFT ホールで行われた。記念式典では、会長・実行委員長長の式辞や来賓の式辞の他、「百周年を迎えて」として長く学会に関わられてきた先生からお話をいただいた。

都数研関係での表彰者は次の通りである。

石倉 敏雄（元都数研会長） 田神 仁（元都数研会長）

竹村 精治（元都数研会長） 下條 隆史（元都数研会長）

加藤 竜吾（現都数研副会長）

8 月 3 日（金）

3. 開会式

10:00～10:40 文京シビック 大ホール

4. 記念講演

11:00～12:00 文京シビック 大ホール

「学ぶことの大切さと、研究することの楽しさー偉大な先人に学びつつー」

前東京理科大学学長 藤嶋 昭

記念講演として、前東京理科大学学長 藤嶋 昭氏にお話をいただいた。

氏のご専門は化学であるが、講演の中では数学や物理、あるいは生物系を含めて、偉大な先駆者の足跡について、その凄さに触れられていた。また、中国の古典『管子』の言葉とともに、自らを律して常に学んでいくことの重要性を説かれた。

一年の計は、穀を樹うるに如くはなく、

十年の計は、木を樹うるに如くはなく、

終身の計は、人を樹うるに如くはなし

5. シンポジウム(高等学校部会)

13:30～15:10 千代田区立麴町中学校

「これからの数学教育、どのように授業実戦を進めるか」

コーディネーター 高城 彰吾（学習院高等科）

シンポジスト 駒野 誠（早稲田大学）

小林 健太（一橋大学）

荻野大悟（東京都立日比谷高等学校）

小林徹也（茨城県立竜ヶ崎第一高等学校）

須田学（筑波大学附属駒場中・高等学校）

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が求められ、「理数探究」が導入され、2021 年から「大学入学共通テスト」も実施される。各学校でいかに目標を立て教育課程を編成し実践するか、また評価はどうあるべきか。これまでの歴史や現在の現場の様子も踏まえ、具体的な議論が展開された。

6. 分科会 I

15:20～17:30 千代田区立麴町中学校

この日には 53 本の発表が行われた。会場は活気にあふれ、用意された資料が瞬く間に参加者のもとへ渡り、不足が出るほどであった。

8 月 4 日（土）

7. 分科会 II III

9:30～11:40 (II)

14:20～16:30 (III)

午前には 55 本、午後には 43 本の発表があった。引き続き盛況であり、各分科会場では活発な議論が行われていた。

都数研関係者の研究発表は計 47 本であった。以下、その概要をまとめる。

堀井 賢三

東京都立南多摩中等教育学校

中等教育学校での取り組み：3～4 年時の活動に焦点を当てて

今井 陽一

東京都立大江戸高等学校

高校数学「主体的・対話的で深い学び」の実現

：「思考力・判断力・表現力等」を高める授業改善